

# R4年度第15号 南部分科会情報誌 シロオビノメイガ・コナダニ・ベと病にご注意ください！

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：11月10日

圃場調査では、ほうれんそうにコナダニ、シロオビノメイガ見られました。今後、アブラナ科の作物の肥切れによるベと病も予想されますので、液肥の施用、農薬散布で防除に努めてください。

## 注目病害虫 シロオビノメイガ

### 《症状》

ほうれんそうの他にアカザ科・ヒユ科雑草に寄生します。体長1～2cmで淡緑色の幼虫が葉を糸で綴じ合わせてその中に潜み食害します。やがて、葉柄と太い葉脈だけを残して葉を食い尽くすようになります。

### 《防除のポイント》

- ①圃場周辺の雑草を早めに除去する。
- ②防虫ネットを直がけまたはトンネルがけする。
- ③葉裏をこまめに確認し、幼虫がいればただちに防除する。
- ④若齢幼虫期の間には薬剤散布を行う。

ほうれんそう シロオビノメイガ 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
カスケード乳剤	15	4000倍	収穫3日前まで	3回以内
ディアナSC	5	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内
プレバソソフロアブル5	28	2000倍	収穫前日まで	3回以内



シロオビノメイガ成虫(開張約2cm)



シロオビノメイガ幼虫(体長1～2cm)

### 今後の注目病害虫：アブラナ科 ベと病

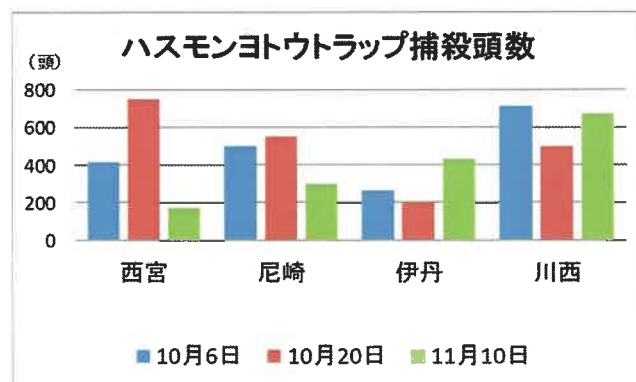
比較的気温が低く、高湿下で発生が多く見られます。雨水がたまらないようにし、過湿を防ぎましょう。また、肥料不足により、発生が助長されてしまいますので、液肥などを有効に使い病気を防ぎましょう。病気にかかった残渣は圃場の外に持ち出しして、処分しましょう。

かぶの葉に発生したベと病の病斑(初期)



### ハスモンヨトウのトラップ動向

ハスモンヨトウの捕殺頭数が多い状況です。引き続き、ご注意ください



※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

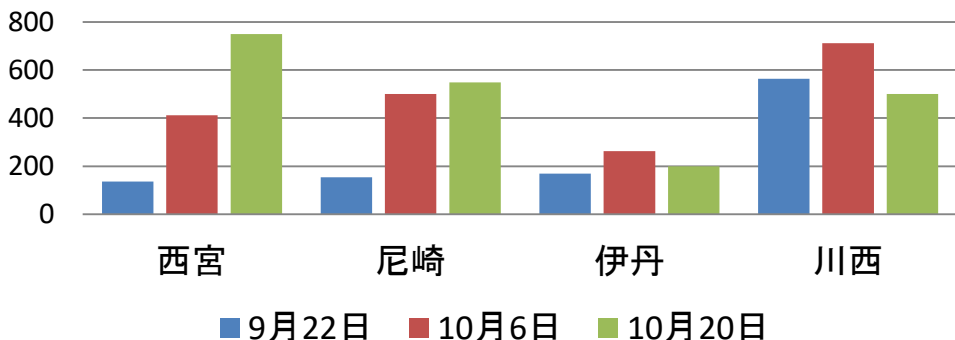
※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ《その他 発生予察情報誌》2022年度発行 を参考下さい。》

# R4年度第14号 南部分科会情報誌 ハダニ類・コナジラミにご注意ください！

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：10月20日

圃場調査では、ハスモンヨトウトラップの捕殺頭数が依然増加傾向です。ハダニ、コナジラミによる被害も続いております。ローテーション防除を心掛けた対策をよろしくをお願いします。

## ハスモンヨトウトラップ捕殺頭数



前回調査より西宮地区は大幅に増加しています。尼崎地区、川西地区については高止まり傾向です。

## 注目病害虫 コナジラミ類

### 〈症状〉

○幼虫及び成虫が葉を吸汁するが、ウィルス病の媒介や高密度時に発生するすす病は葉や果実を黒く汚して商品価値を下げる。

### 〈虫の特徴・発生生態〉

○施設内では周年発生し、発生回数は年間10回以上となる。

○成虫は体長約1.5mm程度、オンシツコナジラミは野外で越冬できるが、タバココナジラミは野外で越冬できず、施設が主たる越冬場所と考えられる。

発生は、主に苗による持ち込みと野外からの成虫飛び込みで始まる。通常、気温が高くなる3月以降多くなるが、加温施設では冬季でも増殖が激しく、多発することがある。

### 〈対策〉

○発生が多い時は薬剤による防除が必要。

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
モベントフロアブル	23	2000倍	収穫前日まで	3回以内
コロマイト乳剤	6	1500倍	収穫前日まで	2回以内
スタークル顆粒水和剤	4A	2000~3000倍	収穫前日まで	2回以内



↑ ナスのコナジラミ類によるすす

## 注目病害虫 ハダニ類

一部圃場にて、こまつなのハダニ類の発生も見られました。

農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
サフオイル乳剤	未	300倍	収穫前日まで	-

※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ<<その他 発生予察情報誌<<2022年度発行 を参考下さい。>>

# R4年度第13号 南部分科会情報誌 ヨトウムシ類の増加にご注意ください！

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：10月6日

圃場調査では、各地区ともハスモンヨトウトラップの捕殺頭数が非常に増えております。卵塊を見つけた場合は直ちに処分してください。その他チョウ目害虫の発生も確認されているので、圃場をよく見て、早期防除をお願いします！

非結球あぶらな科葉菜類		コナガ、アオムシ、キスジノミハムシ		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
プロフレアSC	30	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内	

ネギ		シロイチモジヨトウ		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
アニキ乳剤	6	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内	
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	
プロフレアSC	30	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内	

## 《ハスモンヨトウに注意してください》

卵からかえった若齢幼虫のうちに、葉裏に薬剤がよくかかるように防除して下さい。キャベツやハクサイなどの結球野菜では、ハスモンヨトウが葉の内側に残らないよう、特に結球初期にしっかりと防除を実施してください。

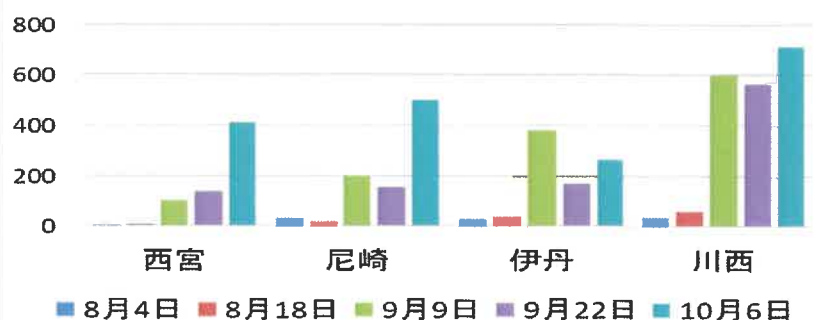
※同系統の農薬を連続散布すると、抵抗性をもった病害虫が増殖しやすくなり、薬剤の効果が低減する可能性があります。農薬散布時は異なる系統の農薬を組み合わせ使用しましょう。

ほうれんそう		ハスモンヨトウ		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
カスケード乳剤	15	4000倍	収穫3日前まで	3回以内	
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	
アフーム乳剤	6	2000倍	収穫3日前まで	2回以内	

ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー・レタス		ハスモンヨトウ		適用農薬情報	
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数	
アニキ乳剤	6	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内	
ヨーバルフロアブル	28	2500~5000倍	収穫前日まで	3回以内	
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	



単位：匹 ハスモンヨトウトラップ捕殺頭数



③ハスモンヨトウのトラップ動向  
全地区でハスモンヨトウの捕殺頭数が急増！  
秋冬野菜の被害に十分注意下さい！

※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ《その他 発生予察情報誌》2022年度発行 を参考下さい。》

# R4年度第12号 南部分科会情報誌 チョウ目害虫高止まり傾向！！

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：9月22日

圃場調査では、各地区ともハスモンヨトウの捕殺数が増えた状態が続いています。圃場をよく見て、早期防除をお願いします！！ハイマダラノメイガも引き続き発生しており、警戒してください。

## 『注目害虫：ハスモンヨトウ』

前回に引き続き、発生が顕著なハスモンヨトウに注意してください。  
比較的繁殖力が強く、被害は10月以降も続きます。

《散布のタイミング》できるだけ初期防除が重要ですが、キャベツやハクサイなどの結球野菜では、ハスモンヨトウ葉の内側に残らないよう、特に結球初期にしっかりと防除を実施してください。



農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	適用農薬情報 使用回数
アニキ乳剤	6	1000～ 2000倍	収穫3日前まで	3回以内
ヨーバルフロアブル	28	2500～ 5000倍	収穫前日まで	3回以内
ディアナSC	5	2500～ 5000倍	収穫前日まで	2回以内

《注意！》同系統の農薬を連続散布しているケースが見られます。

同じ系統の農薬を連続散布すると、抵抗性をもった病害虫が増殖しやすくなり、薬剤の効果が低減する可能性があります。農薬散布時は異なる系統の農薬を組み合わせ使用していきましょう。

薬剤の系統は上表の「IRAC」欄を参照してください。IRACが異なれば、違う系統の農薬となります。

例：○ アニキ乳剤 → ヨーバルフロアブル → ディアナSC 【全て異なる系統を使用】  
× プレバツンフロアブル5 → ヨーバルフロアブル → プレバツンフロアブル5 【全てIRAC 28 系統】

## 強風や大雨に対する事後対策の重要性

### 強風や大雨等により、作物が傷むと思わぬ被害が発生します

南部分科会情報誌第11号にて言及しましたが、強風や大雨等で作物が被害を受けた場合、早急な事後対策が必要です。

①殺菌剤散布による病害予防や、②液肥葉面散布による草勢の回復を図ることで、出荷物の品質低下や収量減少を防ぎます。

①：強風により生じた葉茎の傷口から、泥はねによって病原菌が侵入し、大きな病害につながる事が多々あります。

特にハクサイやダイコンに度々見受けられる「軟腐病」などは、このメカニズムによって、よく発生します。

※同様の原理で、虫食い痕が原因となることもあります。

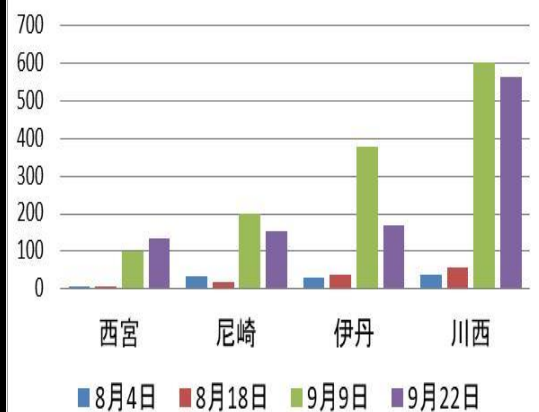
②：大雨等で長時間土壌水分が飽和状態となると根が傷みます。根が傷むと、一時的な肥料切れ状態となり、様々な生理障害へとつながります。

液肥葉面散布は、傷んだ根が吸えない栄養を葉茎から吸わせる緊急処置といえます。

※人間に例えると点滴のようなイメージです。

📍 ハスモンヨトウのトラップ動向  
全地区でハスモンヨトウの捕殺頭数が急増！！秋冬野菜の被害に十分注意下さい！！  
単位：匹

### ハスモンヨトウトラップ捕殺頭数



※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ《その他 発生予察情報誌》2022年度発行 を参考下さい。》

# R4年度第11号 南部分科会情報誌 鱗翅目害虫増加傾向！！

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：9月9日

圃場調査では、ネギのアザミウマ類被害、小松菜に炭疽病が確認されました。トラップでは各地区ともハスモンヨトウの飛込数が非常に増えています。圃場をよく見て、早期防除をお願いします！！

## 『注目害虫：ハスモンヨトウ』

《症状》 葉裏に生息し、葉を食害します。被害部は、若齢幼虫の頃は表皮を残して白色かすり状になりますが、多発時には葉脈だけ残しレース状になります。

《虫の特徴》 卵は数百個が一塊となって葉に産みつけられ幼虫は6齢を経過し成長すると40mmにもなります。被害は6月頃から見られ、8月下旬から10月まで被害が増加します。

《防除のポイント》 卵からかえった若齢幼虫（1～2齢）は集団となって葉を食害しますがその後成長するに従い分散していくので、若齢のうちに葉裏に薬剤がよくかかるように防除を行います。また、卵塊を見つけた場合は、直ちに処分してください。



卵塊(これで数百個の塊)



若齢幼虫の間に徹底防除！！



他の作物に移る前に防除！！

卵塊は早急に処分！！

ハクサイ・キャベツ・ブロッコリー・レタス		ハスモンヨトウ		適用農薬情報
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
アニキ乳剤	6	1000～2000倍	収穫3日前まで	3回以内
ヨーバルフロアブル	28	2500～5000倍	収穫前日まで	3回以内
ディアナSC	5	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内

## 台風・豪雨等における事前対策・事後対策が大切です！！

近年、局地的な豪雨が増えています。作物への被害を最小限にするためにも、対策をお願いします！！

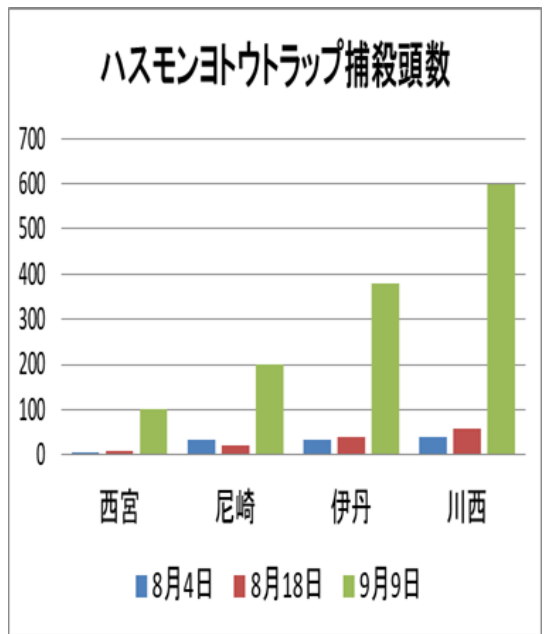
### ①事前の対策

- 排水溝、施設の再点検をしましょう。特に排水溝周辺の草刈りを実施し、刈草等を除去しスムーズに排水が出来るようにしましょう。
- 台風直撃が予測され、作物が小さい場合、寒冷紗等のベタかけをして風害を軽減しましょう（台風通過後はすぐに除去します）。
- 折れた葉や茎があれば早めに除去し、殺菌剤等の散布を行きましょう。

### ②事後の対策

- ほ場に雨水が停滞している場合は、早急にほ場の排水に努めましょう。
- 作物の早期回復を図るため、液肥の葉面散布等を行うと効果的です。《施設栽培における事前の点検》
- マイカー線の緩みがないか、押さえのラセン杭や鉄筋が固定されているか、天窗部分が強風で開いてしまわないか等を再点検しましょう。
- 側部の被覆資材が巻き上げ装置により開閉できるものについては、開いてしまわないように装置を固定しましょう。

📍 ハスモンヨトウのトラップ動向  
全地区でハスモンヨトウの捕殺頭数が急増！！秋冬野菜の被害に十分注意下さい！！  
単位：匹



※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ《その他 発生予察情報誌》2022年度発行 を参考下さい。》

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：8月18日

圃場調査では、キャベツ、ブロッコリー、軟弱野菜にハイマダラノメイガ（通称ダイコンシンクイムシ）の発生が多くみられます。秋冬野菜の植付時期ですので、植付時の粒剤を使用して防除に努めてください。

## ハイマダラノメイガに注意！

ハイマダラノメイガは、一般に高温少雨の条件で多く発生し、キャベツ、ハクサイ、ダイコンなど、アブラナ科野菜の生長点を食害します。

発芽直後の被害は欠株となり、本葉3～4枚頃の被害では成長が止まり奇形株となります。



キャベツ・ハクサイ ハイマダラノメイガ 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	使用量	使用時期	使用回数
スタークル粒剤	4A	2～3 g/株	定植時	定植時 1回
ミネクトデュオ粒剤	28、4A	1 g/株	定植時	定植時 1回

※JAでご購入のセルトレイ苗にはミネクトデュオ粒剤散布済みものがあります。農薬使用履歴でご確認下さい。



ハイマダラノメイガ幼虫

こまつな・チンゲンサイ ハイマダラノメイガ 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ディアナSC	5	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内

非結球あぶらな科葉菜類(なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつなを除く) ハイマダラノメイガ 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
アフーム乳剤	6	1000～2000倍	収穫7日前まで	3回以内

## 【ゲリラ豪雨の対策】

近年、局地的に短時間で降る豪雨によって野菜の生育に影響を与える機会が増えています。事前に発生する予測が難しいので、対策をとってできるだけ被害を最小に抑えましょう。

### ○降雨前の対策

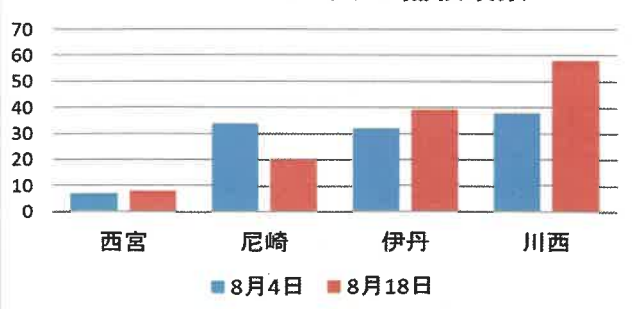
排水溝、施設の再点検をしましょう。特に排水溝周辺の草刈及び刈草等の除去を行い、スムーズに排水ができるようにしましょう。

### ○降雨後の対策

- ・ほ場に雨水が停滞している場合は、早急にほ場の排水に努めましょう。
- ・作物の早期回復を図るため、液肥の葉面散布や病気を防ぐため殺菌剤を使用すると効果的です。
- ・折損した葉や茎を除去し、病害発生の予防が必要な場合は農薬の適正散布を行いましょう。
- ・生育初期に被害を受けた場合には、予備苗による植え替えや再は種を行いましょう。

被害が著しい場合にはほかの品種または作物に転換することも検討しましょう。

ハスモンヨトウトラップ捕殺頭数



### ←ハスモンヨトウのトラップ動向

ほとんどの地区でハスモンヨトウの捕殺頭数が増えてきています。

今後、防除に努めてください。

※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ<<その他 発生予察情報誌<<2022年度発行 を参考下さい。>>

# R4年度第9号 南部分科会情報誌 引き続き気温上昇による害虫発生にご注意下さい。

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：8月4日

圃場調査では、前回に引き続き、なすにハダニ、非結球あぶらな科葉菜類にハイマダラノメイガの発生を確認しました。特にハイマダラノメイガは例年より発生が多い傾向にありますのでご注意ください。

## ナスのハダニ類に引き続き注意！！

葉に針でついたような円形の白色斑点（脱色）が見られます。多発状態になると、多くの葉が吸汁によって白っぽく変色し、葉や茎にクモの巣状に糸が張り渡されます。卵～成虫までの期間が短く薬剤抵抗性が出現しやすいので、系統の異なる3～4種の薬剤でローテーション散布します。おもに葉の裏側に寄生しているため、薬量を十分に使い、丁寧に散布してください。

ナス ハダニ 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ニッソラン水和剤	10	2000～3000倍	収穫前日まで	2回以内
サフオイル乳剤	未	300～500倍	収穫前日まで	-

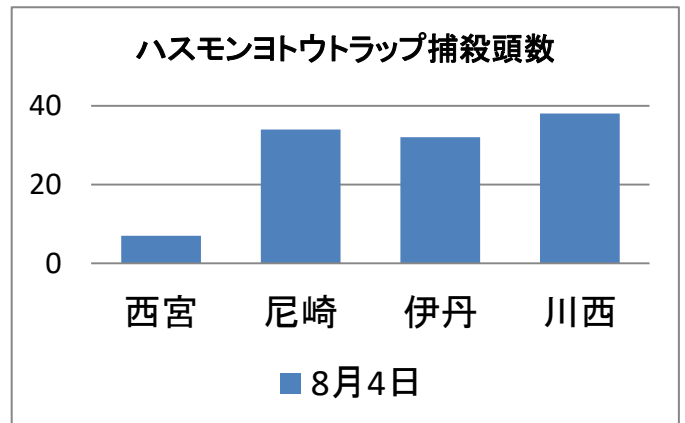
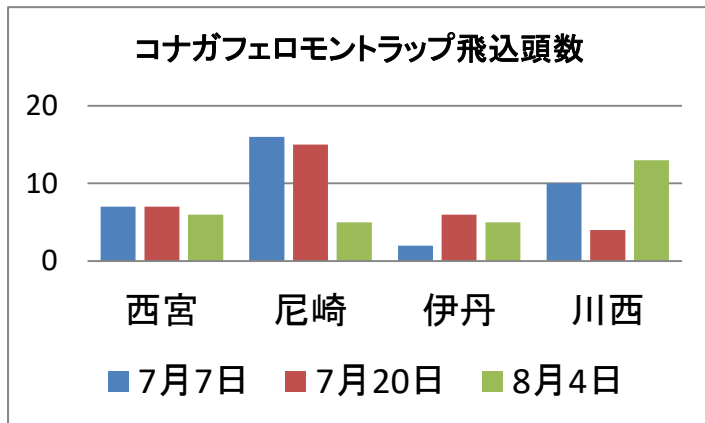
## ハイマダラノメイガに注意！

ハイマダラノメイガは、一般に高温少雨の条件で多く発生し、キャベツ、ハクサイ、ダイコンなど、アブラナ科野菜の生長点を食害します。



キャベツ・ハクサイ ハイマダラノメイガ 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ヨーバルフロアブル	28	2500～5000倍	収穫前日まで	3回以内
プロフレアSC	30	2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内

こまつな・チンゲンサイ ハイマダラノメイガ 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ティアナSC	5	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内



コナガのフェロモントラップ調査は本情報誌で最終です。ハスモンヨトウの捕殺頭数は昨年同時期と比較し多い傾向にあります。ご注意ください。

※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ《その他 発生予察情報誌《2022年度発行》を参考下さい。》

# R4年度第8号 南部分科会情報誌 気温上昇による害虫発生にご注意下さい。

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：7月20日

圃場調査では、前回に引き続き、なすにハダニ・アザミウマ類、非結球あぶらな科葉菜類にハイマダラノメイガ、トマトには葉かび病の発生を確認しました。梅雨明けが早く気温の高い日が続いています。予防的に早期防除をお願いします。

## ナスのハダニ類に注意！！

特徴：葉にかすり状の白い食害痕が現れます。被害が拡大すると枯死・落葉します。多発後は防除が非常に困難となるため、早期に防除を行うことが大切です。



写真 ナスの葉  
ハダニ類による被害

なす ハダニ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
サフオイル乳剤	-	300~500倍	収穫前日まで	-
コテツフロアブル(劇)	13	2000倍		4回以内
グレースシア乳剤	30			2回以内
モベントフロアブル	23			3回以内

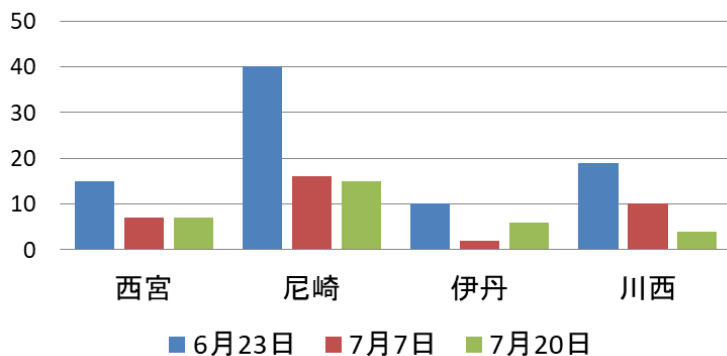
## 【水稻情報】トビイロウンカ・カメムシ類に注意してください！！

7月20日の水稻病害虫調査において、阪神管内でトビイロウンカ『秋ウンカ』の発生を確認しました。カメムシ類の発生も増えています。手遅れになる前に早めの防除をお願いします！！  
下写真 坪枯れ被害



薬剤名	10 a 当り使用量	使用時期	対象害虫	使用回数
スタークル粒剤	3 kg	収穫7日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	3回以内
スタークル豆つぶ	250 g ~ 500 g			
スタークル顆粒水溶剤	3000倍 60~150ℓ	収穫7日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ	3回以内
トレボン乳剤	1000倍~2000倍 60~150ℓ	収穫14日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネドロオイムシ、イナゴ類	3回以内
なげこみトレボン	水溶性容器 10個(500ml)	5葉期以降収穫 21日前まで	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ第1世代	3回以内

### コナガフェロモントラップ飛込頭数



### ☞コナガのトラップ動向

今回も各地区も飛込数が減少傾向となっています。圃場調査においてもコナガによる被害は少なく他害虫の被害が目立ちます。次回の情報誌よりハスモンヨトウのトラップ情報をお繋ぎします。

※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ《その他 発生予察情報誌》2022年度発行 を参考下さい。》

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：7月7日

圃場調査では、なすにハダニ、非結球あぶらな科葉菜類にハイマダラノメイガやアブラムシ類の発生を確認しました。梅雨明けが早く気温の高い日が続いており、本来なら8月以降に被害が本格化するハイマダラノメイガが確認されています。予防的に早期防除を心がけましょう。

## ハイマダラノメイガ（通称ダイコンシンクイムシ）の発生に注意！

ハイマダラノメイガの被害症状：生長点を食害することにより、欠株もしくは奇形株の原因となります。

防除法：防虫ネット等で飛来を防止する。幼苗期や生育初期に発生前に予防的に防除する。

非結球あぶらな科葉菜類(なばな類、のざわな、チンゲンサイ、こまつなを除く)		ハイマダラノメイガ	適用農薬情報	
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
アフーム乳剤	6	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内

こまつな・チンゲンサイ		ハイマダラノメイガ	適用農薬情報	
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内

ハイマダラノメイガは、一般に高温少雨の条件で多く発生し、アブラナ科野菜（こまつなやチンゲンサイ、キャベツ、ハクサイ、ダイコンなど）の生長点を食害します。

発芽直後の被害は欠株となり、本葉3~4枚頃の被害では生長が止まり奇形株となります。定植時に登録のある粒剤を使用することをおすすめします。



ハイマダラノメイガ幼虫による被害



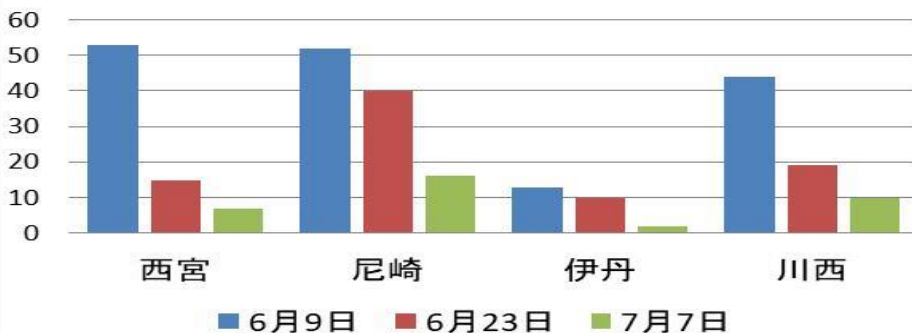
ハイマダラノメイガ幼虫



### 【今後注意すべき害虫 ハダニ類】

特徴：葉にかすり状の白い食害痕が現れます。被害が拡大すると枯死・落葉します。多発後は防除が非常に困難となるため、早期に防除を行うことが大切です。

### コナガフェロモントラップ飛込頭数



### ☞コナガのトラップ動向

何れの地区も飛込数が減少傾向となっています。圃場調査においてもコナガによる被害は少なく他害虫の被害が目立ちます。ただし、防除を怠ると被害は再拡大しますので

※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ《その他 発生予察情報誌》2022年度発行 を参考下さい。》

# R4年度第6号 南部分科会情報誌 『継続！！梅雨時期の病害虫発生に注意！！』

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：6月23日  
 圃場調査で、トマト、なす、非結球あぶらな科葉菜類にアザミウマ類の発生を確認しました。  
 トマトでは葉かび病・うどんこ病の発生が確認されました。梅雨に入り、湿度・気温も上昇しています。  
 草勢が弱ると病気の発生を助長しますので、適正な肥培管理に努めて下さい。

## 害虫『アザミウマ類』引き続き、果菜類の発生に要注意！！

トマトの被害症状：葉を食害するとシルバリング症状を、果実には白ぶくれ症やケロイド状の傷を発生させる。

防除法：防虫ネット等で飛来を防止する。発生初期の防除に努め、密度を下げる。

トマト ミカンキイロアザミウマ 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ウララDF	29	2000倍	収穫前日まで	3回以内
トマト アザミウマ類 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤（劇）	4A	2000倍	収穫前日まで	3回以内
なす ミカンキイロアザミウマ 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ウララDF	29	2000倍	収穫前日まで	3回以内
なす アザミウマ類 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤（劇）	4A	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内

アザミウマ類の多くは葉裏や花の内部にいる。  
 アザミウマ類が花を吸汁する（写真①）と  
 成長するにつれ、実への被害が出てくる（写真  
 ②）ため、葉裏や花への防除が必須。  
 商品価値のあるものを出荷する際には、  
 徹底した防除が必要。



## 【今後注意すべき病気 トマト 灰色かび病】

### 《病徴と診断》

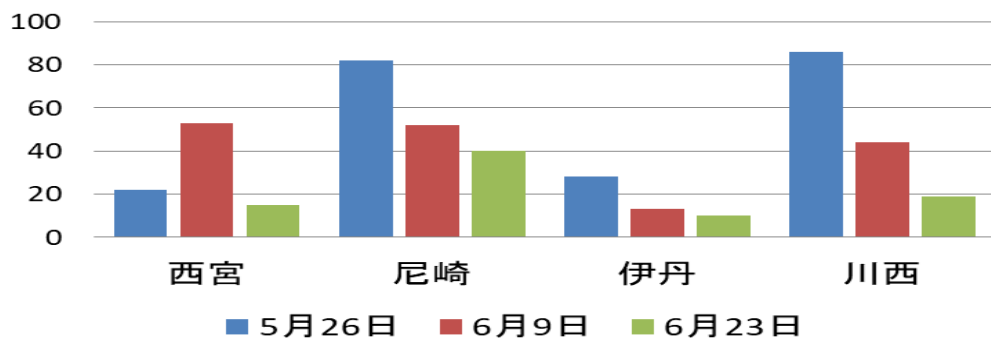
地上部の各部位に発生するが、果実では花落部付近から侵入し、果実を軟化・腐敗させ、後に灰色のカビがピロード状に発生する。また、果実に黄白色・小円形の中心部に斑点のある病斑を生じることがある。

### 《防除ポイント》

換気に心がけ、系統の異なる薬剤でローテーション防除に努める。



## コナガフェロモントラップ飛込頭数



## コナガのトラップ動向

先週より、飛込数は全体的に減っています。圃場でも、軟弱野菜は全体的に少なく、飛込数が減っていると思われますが、油断せずに圃場を十分観察し、早期防除をお願いします。

※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ《その他 発生予察情報誌》2022年度発行 を参考下さい。》

# R4年度第5号 南部分科会情報誌 『梅雨時期の病害虫発生に注意！！』

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：6月9日  
圃場調査で、トマト、なす、きゅうり、オクラ、ピーマンにアザミウマ類・アブラムシ類の発生が確認されました。 また、トマトで輪紋病の発生が確認されました。

梅雨に備え、遮光資材の被覆時期や適期防除に注意しながら対策をお願いします。

## 『アザミウマ類』 前回に引き続き要注意害虫！！

被害症状：葉を食害するとシルバリング症状を、果実には白ぶくれ症やケロイド状の傷を発生させる。

防除法：防虫ネット等で飛来を防止する。発生初期の防除に努める。

トマト ミカンキイロアザミウマ 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ウララDF	29	2000倍	収穫前日まで	3回以内
トマト アザミウマ類 適用農薬情報				
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤（劇）	4A	2000倍	収穫前日まで	3回以内

なす ミカンキイロアザミウマ 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ウララDF	29	2000倍	収穫前日まで	3回以内
なす アザミウマ類 適用農薬情報				
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤（劇）	4A	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内

## 『アブラムシ類』 要注意害虫！！

なす アブラムシ類 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ウララDF	29	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤	4A	3000倍	収穫前日まで	2回以内

ピーマン アブラムシ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ウララDF	29	2000~4000倍	収穫前日まで	2回以内
モベントフロアブル	23	2000倍	収穫前日まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤	4A	3000倍	収穫前日まで	2回以内

### 【今後注意すべき病気】

梅雨に入り、湿気を好む病気の発生が予想されます。ハウスではうどんこ病や、露地では疫病などです。降雨後は排水に努め、殺菌剤を上手く活用し、予防に努めましょう。



トマトのうどんこ病

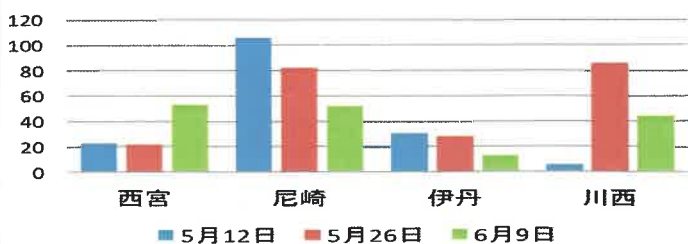


なすの葉裏  
アザミウマ類



ピーマンの葉裏  
アブラムシ類

### コナガフェロモントラップ飛込頭数



**コナガ 昨年同時期に比べ発生が多くなっています。注意してください！**

※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ<<その他 発生予察情報誌<<2022年度発行 を参考下さい。>>

## R4年度第4号 南部分科会情報誌 『梅雨時期の病気発生に注意！！』

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：5月26日  
 圃場調査で、トマト、ナス、きゅうりにアザミウマ類の被害が確認されました。  
 梅雨に備え、遮光資材の被覆時期や適期防除に注意しながら対策をお願いします。

### 『アザミウマ類』前回に引き続き要注意害虫！！

被害症状：葉を食害するとシルバリング症状を、果実には白ぶくれ症やケロイド状の傷を発生させる。

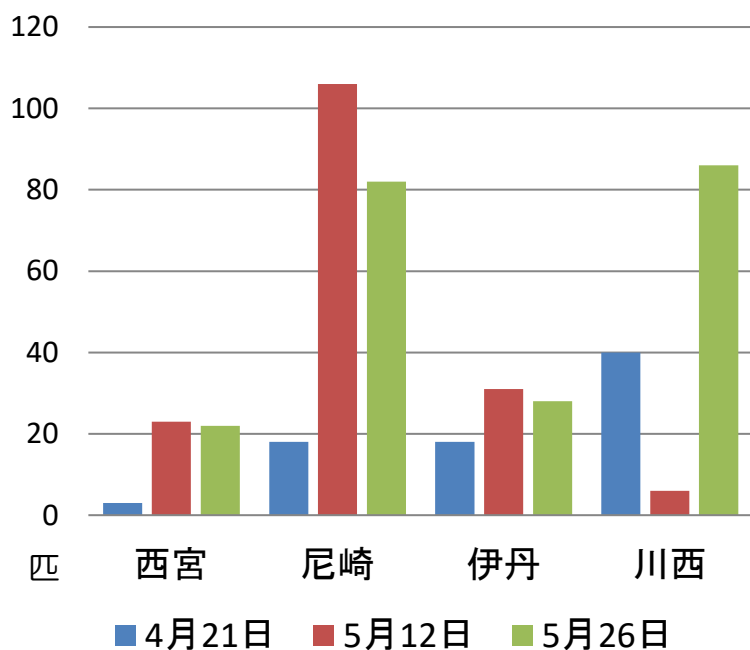
防除法：防虫ネット等で飛来を防止する。発生初期の防除に努める。

トマト アザミウマ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
グレースシア乳剤	30	2000倍	収穫前日まで	2回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内

ナス アザミウマ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
グレースシア乳剤	30	2000倍	収穫前日まで	2回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内

きゅうり アザミウマ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
グレースシア乳剤	30	2000倍	収穫前日まで	2回以内
モベントフロアブル	23	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内

### コナガフェロモントラップ飛込頭数



### 【今後注意すべき病気】

近年、局地的な豪雨により圃場内に水がたまり、根腐れなどの多大な被害が発生しております。  
 事前に溝をさらえ、明きよを確実に排水溝につなげておきましょう。  
 降雨後は、圃場からの速やかな排水に努めるとともに、液肥の葉面散布等で生育の回復に努めてください。

病害発生防止のため、降雨後はZボルドーなどの殺菌剤を散布してください。

果菜類では、灰色かび病・葉かび病・斑点病、葉物野菜では、白さび病、べと病等にご注意ください。



コマツナの葉裏

写真はコマツナの白さび病

**コナガ 昨年同時期に比べ発生が早く多くなっています。注意してください！**

※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ《その他 発生予察情報誌》2022年度発行 を参考下さい。

# R4年度第3号 南部分科会情報誌 『曇天時の病気発生に注意！！』

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：5月12日  
 圃場調査で、トマトやナスにアザミウマ類、大根にキスジノミハムシの成虫が確認されました。  
 コナガのトラップも増加傾向にあります。今後の天候に気を付け、早期発見早期防除に努めて下さい。

## 『アザミウマ類』前回に引き続き要注意害虫！！

被害症状：葉を食害するとシルバリング症状を、果実には白ぶくれ症を発生させる。ウイルスを媒介することもある。

防除法：防虫ネット等で飛来を防止する。発生初期の防除に努める。

トマト アザミウマ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
グレースシア乳剤	30	2000倍	収穫前日まで	2回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内

ナス アザミウマ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
グレースシア乳剤	30	2000倍	収穫前日まで	2回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内

非結球あぶらな科葉菜類 キスジノミハムシ 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
アニキ乳剤	6	1000~2000倍	収穫前日まで	3回以内
プロフレアSC	30	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内



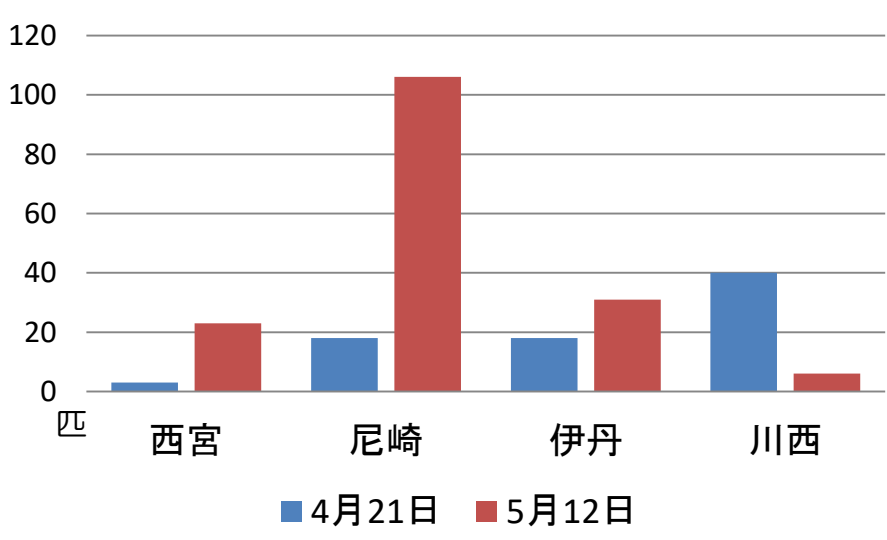
モナスの花にアザミウマ類

トマトの葉裏にアザミウマ類

きゅうりの葉裏にアザミウマ類

大根の葉裏にアザミウマ類

## コナガフェロモントラップ飛込頭数



## 【今後注意すべき病気】

トマトの葉かび病・灰色カビ病  
 はじめは葉裏に灰紫色のカビ

パレード20フロアブル  
 アミスター20フロアブル等で治療を！！  
 写真 トマトの葉カビ病



※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。  
 本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。  
 ※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ<<その他 発生予察情報誌<<2022年度発行 を参考下さい。

**R4年度第2号 南部分科会情報誌 『気温上昇・乾燥に伴い害虫の発生が増えています！』**

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：4月21日

圃場調査で、トマトやたまねぎにアザミウマ類、ブロッコリー・ホウレンソウにヨトウムシ（卵塊及び幼虫）、しゅんぎく・かぶ・イチゴにアブラムシ類が確認されましたので、防除をお願いいたします。

**『アザミウマ類』**

被害症状：葉を食害するとシルバリング症状を、果実には白ぶくれ症を発生させる。ウイルスを媒介することもある。

防除法：防虫ネット等で飛来を防止する。発生初期の防除に努める。

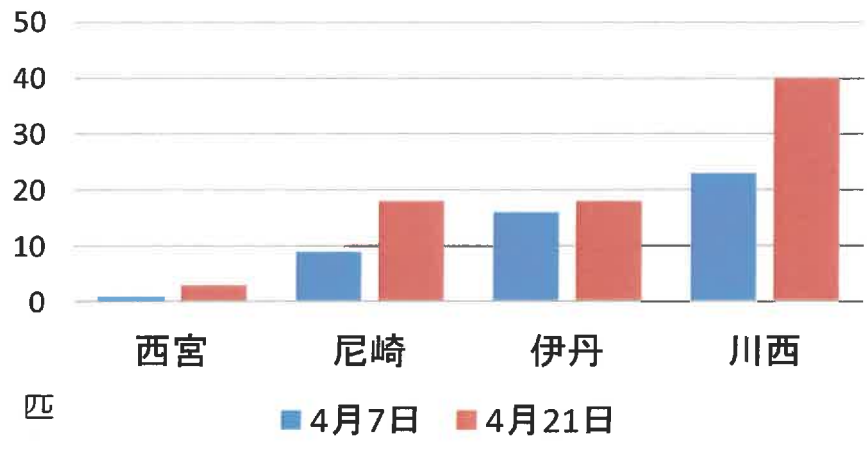
トマト アザミウマ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
グレースIA乳剤	30	2000倍	収穫前日まで	2回以内
ディアナSC	5	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内

ホウレンソウ ヨトウムシ 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ノーモルト乳剤	15	2000倍	収穫7日前まで	2回以内

しゅんぎく アブラムシ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ウララDF	29	4000倍	収穫前日まで	2回以内



**コナガフェロモンラップ飛込頭数**



**【今後注意すべき病害虫】**



むキズジノミハムシの成虫(あぶらな科野菜) 葉に穴をあけ食害

プロフレアSC 等で防除を！  
※あぶらな科野菜でも登録のない品目もあるのでラベルをご確認ください。

トマトの葉かび病ははじめは葉裏に灰紫色のカビ

パレード20フロアブル等で予防を！



※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。  
本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。  
※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ<<その他 発生予察情報誌<<2022年度発行 を参考下さい。

# R4年度第1号 南部分科会情報誌 『気温の上昇にともなう病害虫の発生に注意！！』

発行：阪神地区営農振興協議会 農業技術分科会 調査地区：西宮・尼崎・伊丹・川西 調査日：4月7日

新しいメンバーでの分科会活動を開始します。本年度も宜しくお願いします。

気温の上昇にともない、病害虫の発生が多く目につくようになってきました。

葉や実に問題がないか圃場をよく観察し、早期発見・早期防除をお願いします。

## 『アブラムシ類』

被害症状：葉裏や芯に密着して寄生加害します。多発すると生育を阻害する。

防除法：シルバーマルチの利用や防虫ネットを設置したり、多発する前に薬剤散布をすること。

ホウレンソウ アブラムシ類 適用農薬情報				
農薬名	FRAC・IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
ウララDF	29	4000倍	収穫前日まで	2回以内
スタークル顆粒水溶剤	4A	3000倍	収穫3日前まで	2回以内

ダイコン アブラムシ類 適用農薬情報				
農薬名	IRAC	希釈倍率	使用時期	使用回数
トレボン乳剤	3A	1000~2000倍	収穫21日前まで	3回以内
スタークル顆粒水溶剤	4A	2000~3000倍	収穫7日前まで	2回以内
ウララDF	29	2000倍	収穫前日まで	2回以内

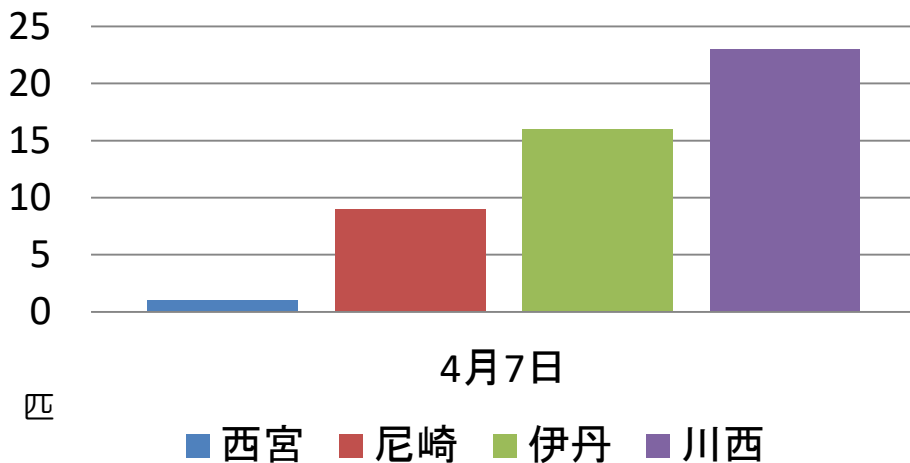


写真  
ホウレンソウを  
加害するアブラムシ

商品価値を下げ、  
クレームにも繋がるため  
頭数が増える前に  
防除をお願いします。



## コナガフェロモントラップ飛込頭数



今年度も  
コナガのフェロモントラップを  
設置し、各地区の飛込頭数を調査  
していきます。

アブラナ科の野菜を好んで多発  
すると被害が甚大になりますの  
で、早期防除をお願いします。

コナガ幼虫

コナガ成虫



※必ず農薬のラベルを確認し、使用基準を遵守ください。

本件に関するお問い合わせは、お近くの営農支援センター又は阪神農業改良普及センターまで。

※兵庫六甲のHPにも掲載 生産者の皆様へ<<その他 発生予察情報誌<<2022年度発行 を参考下さい。